

美しい“ふじのくに”の  
みちづくり



平成30年7月  
静岡県交通基盤部 道路局



# 目次

## I はじめに

背景と目的 1

計画の位置付けとポイント 3

## II 道路を取り巻く環境

道路を取り巻く状況と課題 4

地域の声 8

## III 概ね10年間の道路ビジョン

ビジョン 10

県全域でみる施策の全体像 14

## IV 4年間の道路重点計画

道路重点計画 16

進捗管理 17

重点施策 19

ネットワークを整備する主要整備箇所 22

“みちづくり”を進める取組 24



## 背景と目的

### 背景と目的

静岡県では、豊かな暮らしと活力ある社会の実現に向け、高速道路から生活道路まで、様々な“みちづくり”の取組を進めてきました。

前計画の5年間には、東駿河湾環状道路（三島塚原IC～函南塚本IC）や新東名高速道路（浜松いなさJCT～豊田東JCT）の開通、県内高速道路における5箇所スマートICの供用などが実現し、ヒトやモノの流れが大きく変わり、観光・交流の活性化や民間投資の誘発など、地域活性化につながる様々なストック効果が現れています。

今後も、中部横断自動車道が2019年度までに、新東名高速道路の御殿場ジャンクション以東が2020年度までに開通予定であり、高速道路ネットワークの充実に大きな期待が寄せられています。

また、訪日外国人旅行者が増加する中で、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を契機とした世界中の人々から憧れられるサイクルスポーツの聖地づくりや、景観に配慮した魅力的な空間の創造などに取り組み、交流人口の拡大や本県の魅力の向上を図っていくことが重要です。

一方で、人口減少や少子高齢化の進展に伴う生産年齢人口の減少、切迫する巨大地震や激甚化する自然災害への備え、道路施設の老朽化や交通事故への対策など、道路を取り巻く状況が厳しさを増しており、最新のテクノロジーを活用した自動運転やICTなどの先端技術を施策に柔軟に取り入れ、生産性の向上につなげていくことも重要となります。

限られた予算の中でこれらの課題に対応していくためには、みちづくりに対する明確なビジョンを持ち、投資の方向性を定め、関係者が一体となって施策に取り組む必要があります。

『「美しい“ふじのくに”」のみちづくり』は、これら道路を取り巻く環境の変化や上位計画である新たな県総合計画を踏まえ、今後県が進めていく道路施策の方向性を示すものです。

県総合計画の基本理念『富国有徳の「美しい“ふじのくに”」づくり』に示された「誰もが努力すれば人生の夢を実現でき、幸せを実感できる地域」の実現に向け、“みちづくり”を推進してまいります。

# 背景と目的

## 計画の変遷

年次	主な出来事	みちづくり
2002 (H14)	国における道路整備 5 箇年計画の廃止	<p><b>静岡県の“みちづくり”</b> (H21. 3策定)</p> <p>道路ビジョン(概ね10年間) 道路重点計画(H20-H24の5年間)</p> 
2009 (H21)	道路特定財源の一般財源化	
2011 (H23)	東日本大震災発生	
2012 (H24)	新東名高速道路 (御殿場JCT～三ヶ日JCT) 開通	
2013 (H25)	笹子トンネル事故	<p><b>ふじのくにの“みちづくり”</b> (H25. 7策定)</p> <p>道路ビジョン(概ね10年間) 道路重点計画(H25-H29の5年間)</p> 
2014 (H26)	富士山の世界遺産登録	
2015 (H27)	東駿河湾環状道路 (三島塚原IC～函南塚本IC) 開通	
2016 (H28)	新東名高速道路 (浜松いなさJCT～豊田東JCT) 開通	
2018	熊本地震の発生	<p><b>「美しい“ふじのくに”」の みちづくり</b></p> <p>道路ビジョン(概ね10年間) 道路重点計画(2018-2021の4年間)</p> 
2019	伊豆半島の世界ジオパーク認定	
2020	ラグビーワールドカップ2019(TM) 日本大会 静岡開催	
2021	東京2020オリンピック・パラリンピック	

I はじめに

II 道路を取り巻く環境

III 概ね10年間の道路ビジョン

IV 4年間の道路重点計画

# 計画の位置付けとポイント

## 計画の位置づけ

『「美しい“ふじのくに”」の みちづくり』は、静岡県総合計画『富国有徳の「美しい“ふじのくに”」人づくり・富づくり』（以下「総合計画」という。）を、上位計画とする道路分野の計画であり、総合計画の基本理念の実現に向け、道路施策を進める上での方向性・具体的な取組等を示しています。

【総合計画とみちづくりの関連表】

	総合計画	みちづくり
期間・構成	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 基本構想<ul style="list-style-type: none"><li>・ 概ね10年間（2018～2027）</li><li>・ 基本方針、政策体系</li></ul></li><li>2. 基本計画<ul style="list-style-type: none"><li>・ 4年間（2018～2021）</li><li>・ 具体的な施策、目標</li></ul></li></ol>	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 基本構想<ul style="list-style-type: none"><li>・ 概ね10年間（2018～2027）</li><li>・ 基本理念と基本目標、施策の方向</li></ul></li><li>2. 基本計画<ul style="list-style-type: none"><li>・ 4年間（2018～2021）</li><li>・ 重点施策、数値目標</li></ul></li></ol>
基本理念	富国有徳の「美しい“ふじのくに”」づくり ～静岡県をDreams come true in Japanの拠点に～	富国有徳の「美しい“ふじのくに”」を支える みちづくり

## 計画のポイント

### ○ 静岡県総合計画の実現に向けた道路の分野別計画

県総合計画の基本理念「富国有徳の『美しい“ふじのくに”』づくり」の実現に向け、計画期間内に実施する道路の具体的な施策を明示します。

### ○ 地域の声を反映した計画の策定

地域の皆様や産業界など様々な道路利用者と意見交換する「みち 満ち・充ちミーティング」や市町との意見交換、県民意識調査などにより地域の声を積極的に聞き、計画に反映させるとともに、取組を見直していきます。

### ○ 関係機関との連携

県内の道路を管理している国、市町、NEXCO中日本、静岡県道路公社といった各道路管理者との連携を強化します。

### ○ 道路マネジメント（保全、活用、整備）の推進

道路予算の推移と管理施設の増加や高齢化に伴う維持・更新費用の増額を見据え、保全（まもる）、活用（いかす）、整備（つくる）のバランスをとる、「道路マネジメント」を推進します。

### ○ わかりやすい評価指標の設定による計画の管理

取組の進捗を反映し、県民にとってわかりやすい評価指標を設定するとともに、この達成度を定期的に評価し、取組を見直していきます。

# 道路を取り巻く状況と課題

I はじめに

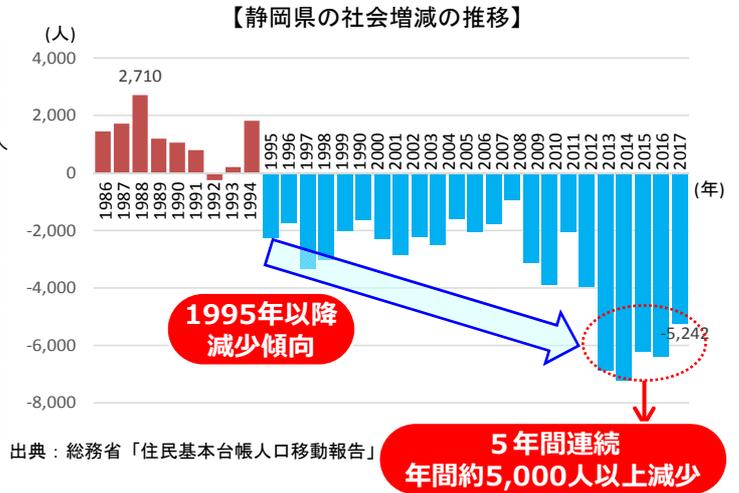
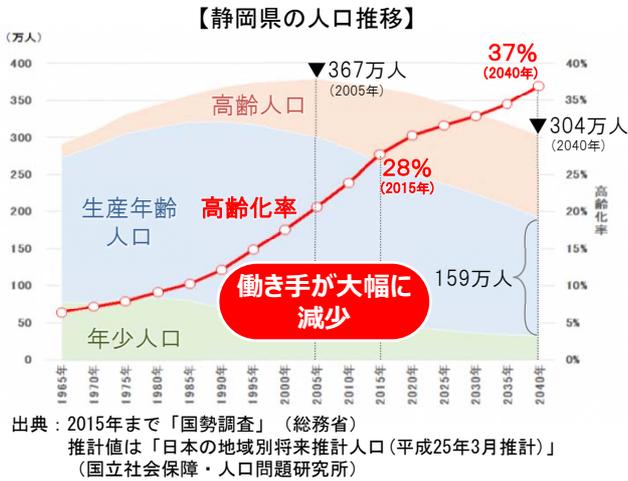
II 道路を取り巻く環境

III 概ね10年間の道路ビジョン

IV 4年間の道路重点計画

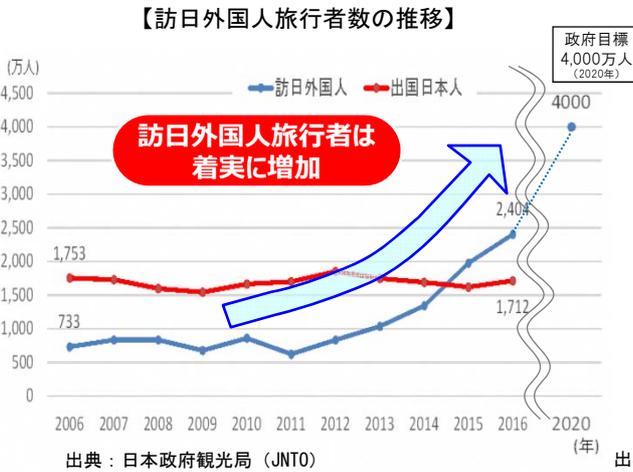
## 人口減少及び少子高齢化の進展

本県の総人口は、2005年をピークに2040年には300万人程度まで減少を続け、生産年齢人口も160万人程度になると推計されています。働き手の減少を補うため、生産性の向上を図ることが必要です。

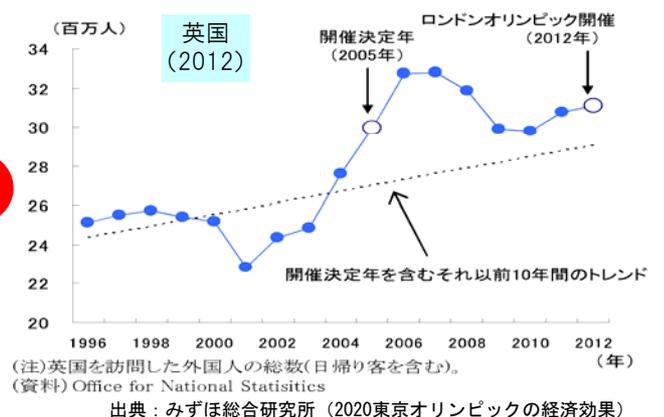
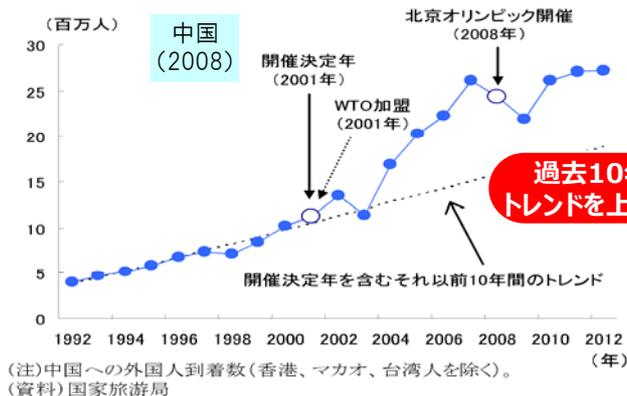


## 交流人口の拡大に向けた動き

訪日外国人旅行者の増加や、東京2020オリンピック・パラリンピック自転車競技の県内開催を絶好の機会と捉え、本県の魅力をアピールし、交流人口のさらなる拡大を図ることが必要です。

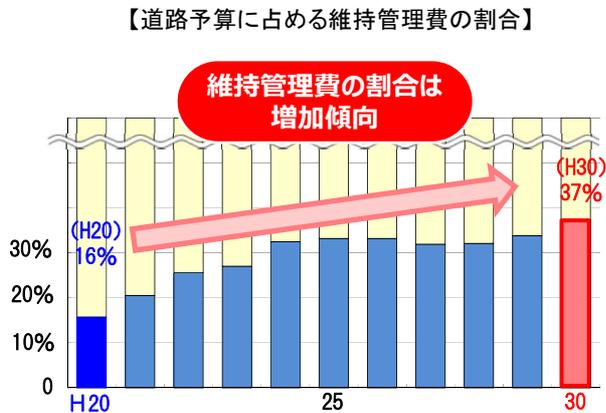
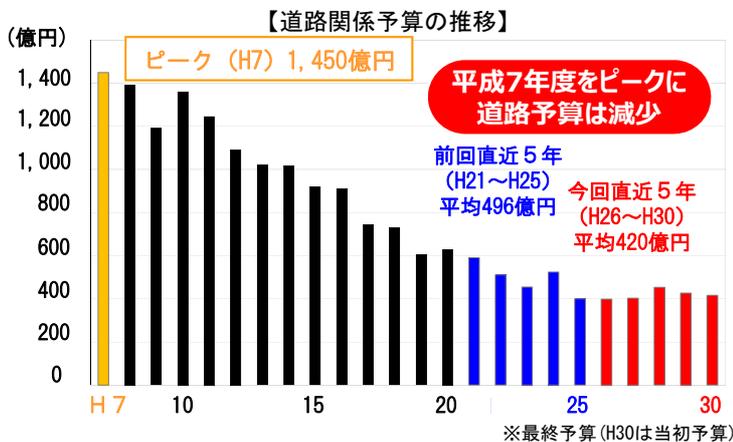


## 【オリンピック前後の外国人旅行者数の推移】



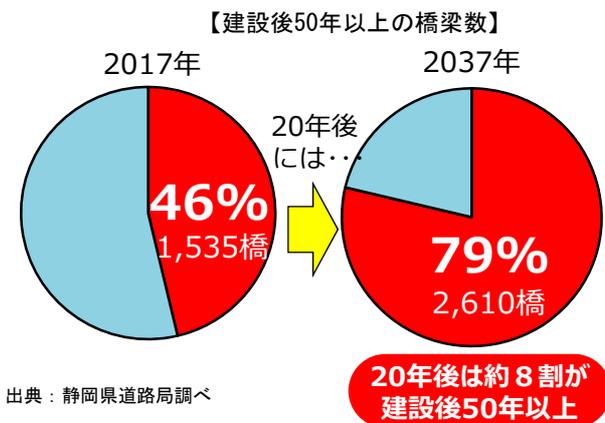
## 予算

県の道路予算は平成7年をピークに年々減少しています。また、予算に占める維持管理費の割合が増加しています。道路の整備と維持管理を確実に実施していくための適切な投資が求められています。



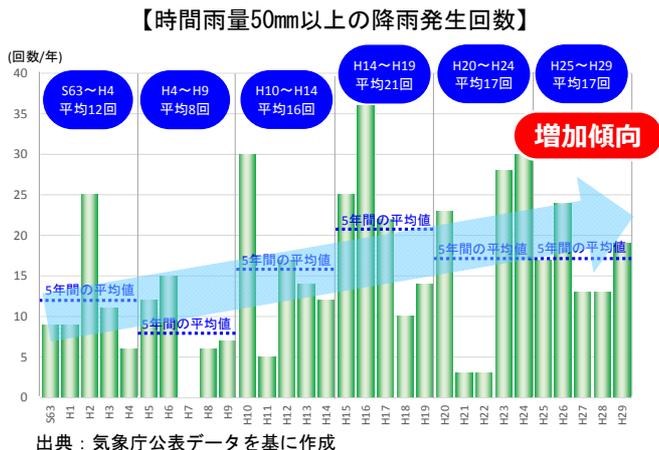
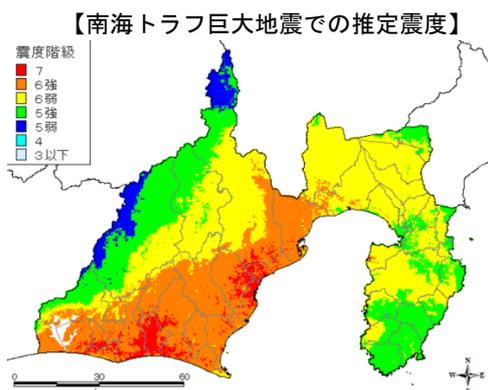
## 道路施設の老朽化

20年後には、本県が管理する橋梁の約8割が建設後50年以上となります。施設の老朽化の影響が日常生活に及ばないように、安全で信頼性の高い道路環境を確保していくことが必要です。



## 激甚化する自然災害

南海トラフ沿いの大規模地震の切迫性が一段と増しており、高規格幹線道路等のネットワーク整備や道路施設の耐震化など、地震災害に強い基盤整備が必要です。また、頻発する局地的豪雨に対し、土砂崩れ等の災害による地域の孤立化を防ぐ、道路防災対策の推進が重要です。



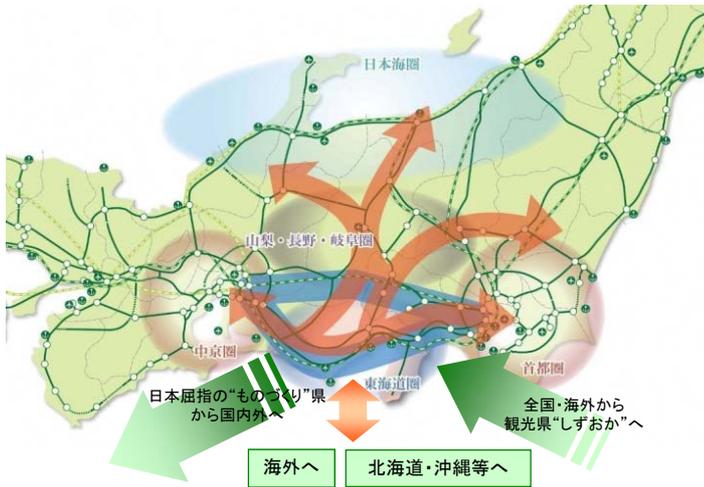
# 道路を取り巻く状況と課題

I はじめに

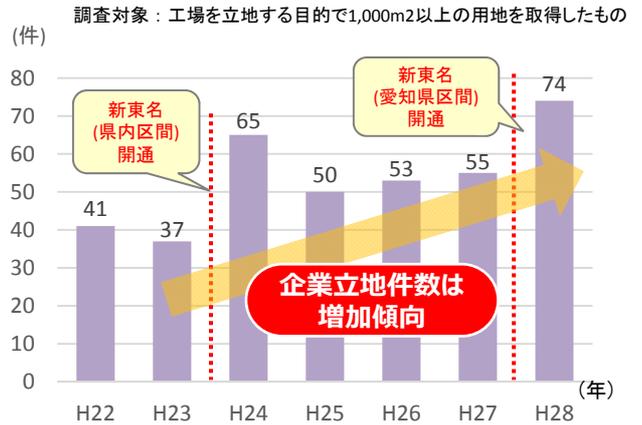
## 国内外との交流の拡大

国内外との交流・物流を拡大し、地域の活力やイノベーションを創出するため、県内はもとより、遠隔地とも短時間で円滑に行き交うことができる広域的な道路ネットワークを充実させる必要があります。

【静岡県を中心とした広域ネットワークの広がり（イメージ）】



【企業立地件数の推移】



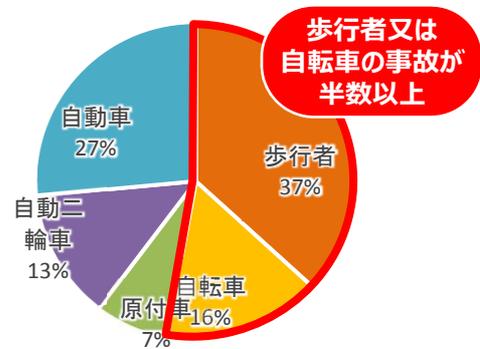
出典：平成28年度工業立地動向調査結果（総務省）に基づき作成

II 道路を取り巻く環境

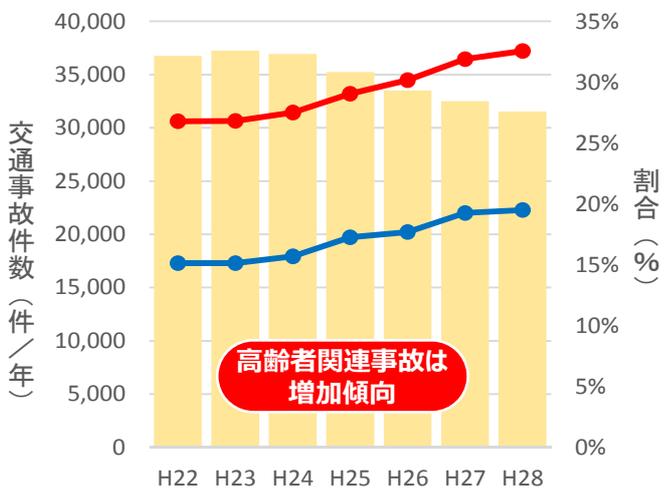
## 交通事故の状況

県内の交通事故発生件数や死者数はここ10年減少傾向ですが、人口10万人あたりの交通事故発生件数は約900件で、依然として全国ワースト2位となっています。また、交通事故死者数の半数以上を占める歩行者・自転車が安全に通行できる道路環境の整備が必要です。

【県内の状態別事故死者数の割合（平成28年）】



【交通事故件数と高齢者関連事故の割合】



出典：静岡県警察本部交通部企画課資料

【交通事故発生件数の比較】



出典：交通事故件数「交通年鑑平成28年」（警察庁）  
人口「国勢調査（平成27年）」（総務省）

III 概ね10年間の道路ビジョン

IV 4年間の道路重点計画

## 景観や環境への意識の高まり

景観や文化・歴史に配慮した取組は、「地域らしさ」を大切に、「愛着」、「誇り」、「ゆとり」や「潤い」など、心の豊かさを感じることができる地域づくりにつながります。みちづくりにおいても、地域と連携し、地域の資源である貴重な景観や自然環境を守り活かし、魅力的な空間を創造することが必要です。

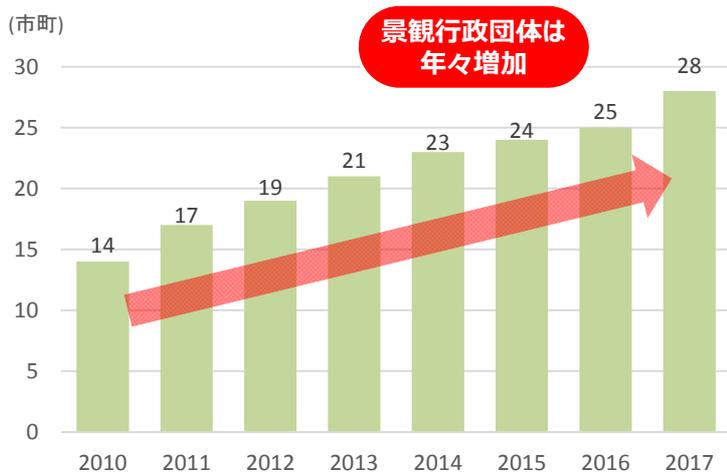
### 【ふじのくに景観形成計画(H29.3策定)】

県土の景観を磨き上げ、未来へ継承するため、景観形成の方針、県が取り組むべき方策及び行動を示すもの



### 【県内35市町における景観行政団体に移行した市町の数(累計)】

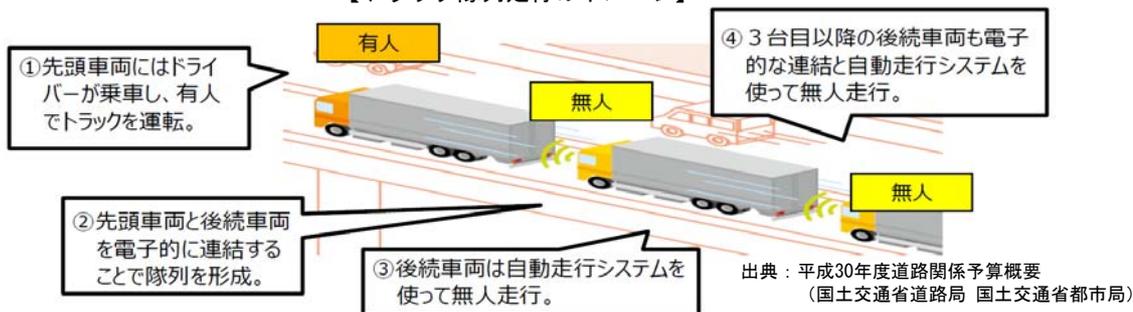
景観行政団体とは、景観行政を担う主体であり、自らの権限で景観施策を推進することが可能となる



## テクノロジーの急速な進展

ICTやAI、ロボット、自動運転等の先端技術の急速な進展に柔軟に対応し、道路施策に取り込んでいくことが重要です。

### 【トラック隊列走行のイメージ】



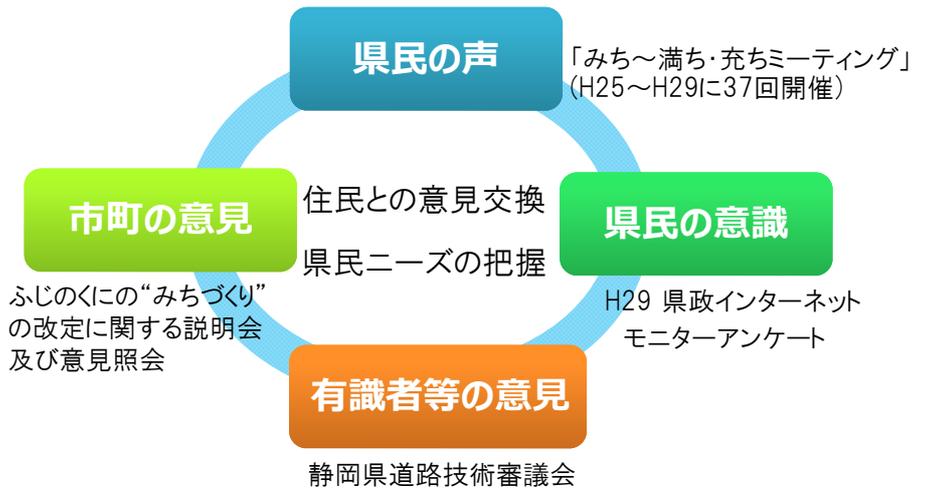
### 【ビッグデータを活用した生活道路対策のイメージ】



# 地域の声

I はじめに

地域の方々と道路について意見交換する「みち～満ち・充ちミーティング」や、県政インターネットモニターアンケートによる意識調査等を計画に反映しています。



II 道路を取り巻く環境

## みち～満ち・充ちミーティング

県民の声

### 道路改良

- 伊豆縦貫自動車道へのアクセス道路を整備して欲しい。
- 中部横断自動車道へのアクセス道路の整備により、物流の効率化を図る必要がある。
- 中山間地では、幹線道路でも狭隘部分が多く、対向車には神経を使う。
- 道路が狭く、ダンプカーとすれ違う時に危ない。
- スマートICを設置する方が、効率的であり優先すべき。

### 歩道整備

- 歩道が狭いため、児童が一列で登校している姿をよく見る。
- 歩道がないため、側溝の上を小学生が歩いており、危険である。
- 車道と歩道の境を区切ってほしい。

### 自転車走行空間

- 安全に自転車が通れるような空間を確保してほしい。
- 健康にも良いため、自転車に乗る環境が整うと良いと思う。
- 自転車専用の道路ができれば安心である。

### 情報提供

- 災害時の備えや異常気象時の情報発信に取り組んでほしい。
- 渋滞情報について、有料でもよいので、精度の高い情報提供があれば、需要があると思う。
- 災害情報の発信など、命を守るために何ができるか考える必要がある。

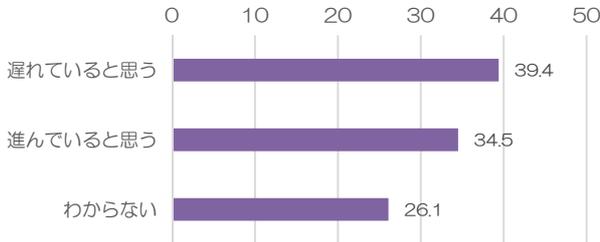
### 命の道

- 命を守ることを最優先にして、みちづくりを進めてほしい。

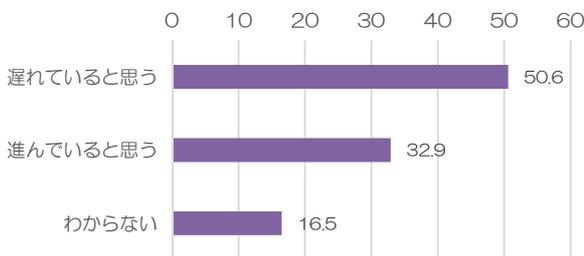
III 概ね10年間の道路ビジョン

IV 4年間の道路重点計画

静岡県の道路の整備状況



お住まいの市町の道路の整備状況について



今後の“みちづくり”について



※ニーズの多い上位10の対策を示す。

市町との意見交換

市町の意見

道路ネットワーク強化に関する要望

- 県内の東西を結ぶ道路軸と比べ、南北を結ぶ道路軸が脆弱である。
- 東名高速道路へのアクセス道路は、ネットワークを構築する上で重要である。
- 他県へ繋がる道路を重点的に整備し、災害時の防災ネットワーク強化や、慢性的な渋滞緩和を望む。

その他の意見

- 渋滞の発生状況を踏まえ、観光地へのアクセス道路の整備を検討してほしい。
- 大型車の交通量が増加する箇所では、沿線住民の安全に配慮した道路整備を要望する。

第9回道路技術審議会

有識者等の意見

道路施策

- 無電柱化、道路環境、景観に配慮した美しいみちづくりを進めてほしい。
- 道路ネットワークの構築に向け、国、県、市町等が連携して取り組むことが重要である。
- 台風により、東名高速道路や国道1号等が通行止めとなり、迂回路に苦慮する状況が発生するのは重要な課題である。

進捗管理

- 道路整備の効果をアピールしていくことが重要である。
- 自転車の走行環境の評価指標は、特定の対策だけに限定しない方が良い。
- 県民生活における効果が解るような指標の設定について、検討すべきである。

# ビジョン

道路を取り巻く現状と課題や地域の声を的確に把握した上で、今後の10年間で進める施策の基本理念と基本目標、施策の方向等を示しています。

## 基本理念

### 富国有徳の「美しい“ふじのくに”」を支えるみちづくり

## ビジョンの体系

道路の現状及び課題

人口減少及び少子高齢化の進展

交流人口の拡大に向けた動き

道路予算の状況

道路施設の老朽化

激甚化する自然災害

国内外との交流の拡大

交通事故の状況

景観や環境への意識の高まり

テクノロジーの急速な進展

地域の声

“みちづくり”に対する地域の声

- ・道路改良
- ・歩道整備
- ・自転車走行空間の確保
- ・情報提供
- ・命の道
- ・ネットワークの強化

基本目標 1

交流

基本目標 2

暮らし

基本目標 3

安全・安心

基本目標 1

魅力を高め、交流を支える “みちづくり”

東京2020オリンピック、パラリンピックの開催を契機に、魅力を高め、交流人口の拡大につながる“みちづくり”を推進します。

施策の方向①

交流人口を拡大する “みちづくり”

基本目標 2

豊かな暮らしを支える “みちづくり”

働き手の減少を補うため、急速に進展するテクノロジー等も活用した、生産性の向上につながる“みちづくり”を推進します。

施策の方向②

産業や暮らしの生産性が向上する “みちづくり”

基本目標 3

安全・安心な生活を支える “みちづくり”

自然災害や交通事故等から命を守り、安全・安心につながる“みちづくり”を推進します。

施策の方向③

災害に強く信頼性の高い “みちづくり”

施策の方向④

安全な生活を実現する “みちづくり”

施策の方向⑤

道路施設の長寿命化を目指す “みちづくり”

## 3つの基本目標と5つの施策の方向

### 基本目標1 魅力を高め、交流を支える “みちづくり”

#### 施策の方向① 交流人口を拡大する “みちづくり”

- ・安全で快適な自転車走行空間の確保
- ・良好な景観を育む道路整備の推進



自転車走行空間の整備



景観に配慮した防護柵



無電柱化

### 基本目標2 豊かな暮らしを支える “みちづくり”

#### 施策の方向② 産業や暮らしの生産性が向上する “みちづくり”

- ・高規格幹線道路等を中心としたネットワークの充実
- ・バイパス整備や現道の拡幅、長大橋の整備など、交通の円滑化を図る渋滞対策



高規格幹線道路の整備

《整備前の現道の状況》



長大橋の整備

《整備後の現道の状況》



### 基本目標3 安全・安心な生活を支える “みちづくり”

#### 施策の方向③ 災害に強く信頼性の高い “みちづくり”

- ・高規格幹線道路等を中心としたネットワークの充実
- ・地域の孤立等を防ぐ防災機能の強化



高規格幹線道路の整備



#### 施策の方向④ 安全な生活を実現する “みちづくり”

- ・安全な道路環境を確保する交通安全対策



交通安全対策

#### 施策の方向⑤ 道路施設の長寿命化を目指す “みちづくり”

- ・道路施設の適切な維持管理の推進



補修前



補修後

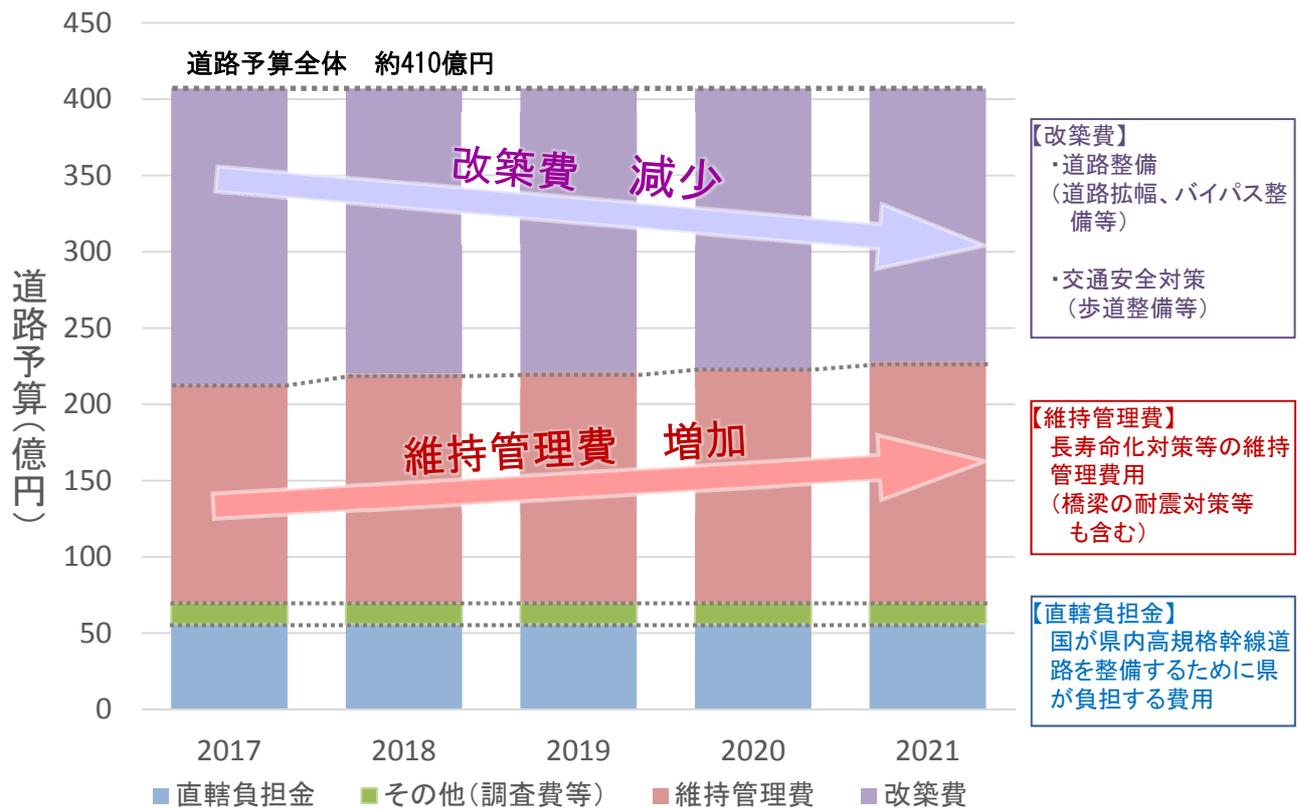
舗装の長寿命化

## 施策の進め方

今後の道路予算の見通しを踏まえ、投資の方向性を定め、「交流」、「暮らし」、「安全・安心」

### ●投資の方向性

今後の道路予算が同規模で推移すると仮定し、広域道路ネットワークの構築に寄与する高規格幹線道路の整備費（直轄負担金）や維持管理費を優先的に確保とした場合、道路の新設に充てられる予算は減少することが予想される。



#### 【方針】

- ・施設の安全確保と長寿命化対策等に必要となる維持管理費を確保
- ・実施中の主要改築事業へ集中投資し、整備効果を早期発現

### ●先端技術の積極的な活用を始めとした徹底したコスト縮減

自動運転や、ビッグデータを活用した交通安全対策、渋滞対策など、ICT等の先端技術を積極的に活用するとともに、ライフサイクルコストを踏まえた工法・材料選定を行うなど、徹底したコスト縮減を図ります。

## ●3分野の基本目標の実現



の3分野における効果を最大化するように、道路施策を進めます。

### ●道路マネジメント(「保全」、「活用」、「整備」)の推進

「交流」、「暮らし」、「安全・安心」の3分野における投資の効果を最大化するように、“保全”、“活用”、“整備”のバランスをとる「道路マネジメント」を推進します。

#### ○道路ストックの更なる活用を図ります。

既存の道路空間の再配分



スマートICの整備



#### ○道路ネットワークの構築や交通安全対策等の整備を進めます。

地域高規格道路の整備



交通安全対策(歩道整備)



既存ストックを活用し、効果的に対策を実施

**活用 (いかす)**

地域の課題解決に必要な整備を早期に実施

**整備 (つくる)**

投資効果の最大化を図る**道路マネジメント**を着実に実施

道路を安全・安心に使い続けられるように、確実かつ効率的な対策を実施

**保全 (まもる)**

#### ○道路施設を効率的かつ確実に管理し、保全します。

橋梁補修



トンネル点検



橋梁の耐震対策  
(落橋防止装置の設置)



道路の法面の防災対策



### ●道路に対する様々なニーズに応じていく

# 県全域でみる施策の全体像

県民の安全・安心と豊かな暮らしを実現し、交流や物流を支える道路ネットワークのイメージを示します。また、交通安全対策や道路施設の老朽化対策等の施策を、県下全域で進めていきます。

## 【県全域で取り組む施策】

道路施設の耐震化

防災対策

交通安全対策

道路施設の老朽化対策

景観や環境への配慮

### 【凡 例】

高規格幹線道路などの主要な道路軸



中山間地域を含めた地域間の連携支援に寄与する国道や県道などの道路軸



高規格幹線道路等



三遠南信自動車道  
佐久間IC～東栄IC  
平成30年度開通予定

### 中部地域

●目指す姿  
『空・海・陸のネットワークと豊かな歴史・文化で世界の人々が集う中枢都市圏』

中部横断自動車道  
新清水JCT～富沢IC  
平成30年度開通予定



南アルプス (ユネスコエコパーク)

南アルプス  
(ユネスコエコパーク)

### 西部地域

●目指す姿  
『世界トップクラスの技術と豊かな自然の恵みで新たな価値を生み出す創造都市圏』

新東名高速道路

東名高速道路

(仮称)  
浜松三ヶ日・豊橋道路



小笠山総合運動公園 (エコスタジアム)

小笠山総合運動公園  
(エコスタジアム)

御前崎港

### 【国内交流ネットワークの充実～将来の姿～】



富士山世界遺産センター

富士山世界遺産センター

日本屈指の“ものづくり”県から国内外へ  
(製造品出荷額全国4位)<sup>1)</sup>

全国・海外から観光県“しずおか”へ  
(観光客入込客数全国4位)<sup>2)</sup>



富士山静岡空港



崎港(重要港湾)

# 道路重点計画

平成30年度以降の4年間（2018年～2021年）に重点的に取り組む施策と評価指標、みちづくりを進める取組等を示します。

## 道路重点計画の体系

### ●概ね10年間の道路ビジョン

#### 基本目標1

#### 魅力を高め、交流を支える“みちづくり”

東京2020オリンピック、パラリンピックの開催を契機に、魅力を高め、交流人口の拡大につながる“みちづくり”を推進します。

#### 施策の方向①

#### 交流人口を拡大する“みちづくり”

#### 基本目標2

#### 豊かな暮らしを支える“みちづくり”

働き手の減少を補うため、急速に進展するテクノロジー等を活用し、生産性の向上につながる“みちづくり”を推進します。

#### 施策の方向②

#### 産業や暮らしの生産性が向上する“みちづくり”

#### 基本目標3

#### 安全・安心な生活を支える“みちづくり”

自然災害や交通事故等から命を守り、安全・安心につながる“みちづくり”を推進します。

#### 施策の方向③

#### 災害に強く信頼性の高い“みちづくり”

#### 施策の方向④

#### 安全な生活を実現する“みちづくり”

#### 施策の方向⑤

#### 道路施設の長寿命化を目指す“みちづくり”

### ●道路重点施策

#### 平成30年度以降の4年間 (2018～2021年度)

景観に配慮した道路整備や  
わかりやすい道路案内標識の整備

交流を支え環境に配慮した  
道路整備

IC・港湾・空港・工業団地等への  
アクセス道路の整備推進

道の駅やスマートICの設置・活用  
による地域活性化の推進

交通円滑化を図る渋滞対策等

高規格幹線道路の整備促進

地域の孤立等を防止する  
防災機能の強化

安全な道路環境を確保する  
交通安全対策

道路施設の適切な維持管理

# 進捗管理

取組の進捗状況を評価指標により把握するとともに、ストック効果等により効果を検証し、道路施策に反映していきます。

## 評価指標

12の評価指標と目標値を設定し、達成度を定期的に確認することにより、事業の進捗状況を管理していきます。

	評価指標	期待される効果	現状 ▶	目標値
共通	<b>①地域の基幹となる道路の供用率</b> <small>現在整備中の高規格幹線道路、地域高規格道路及びI Cアクセス道路の計画区間のうち、供用している道路の割合</small>	交流人口の拡大、産業や暮らしの生産性向上、災害時の安全・安心の確保などが図られます。  <small>※高規格幹線道路等の幹線道路ネットワークは、交流、暮らし、安全・安心の3分野において様々な効果が期待されるため、「共通」の評価指標としています。</small>	63.7% (196.2km) (2016)	<b>77.7%</b> (239.6km) (2021)
	<b>②高規格幹線道路の供用率</b> <small>高規格幹線道路の計画区間のうち、供用している道路の割合</small>		78.5% (359.6km) (2016)	<b>87.2%</b> (399.8km) (2021)
	<b>③高規格幹線道路へのアクセス道路の供用率</b> <small>県が整備している地域高規格道路及びI Cアクセス道路の計画区間のうち、供用している道路の割合</small>		62.3% (22.0km) (2016)	<b>71.4%</b> (25.2km) (2021)
交流	<b>④無電柱化実施率</b> <small>静岡県無電柱化推進計画に位置づけられた区間（電線管理者と合意済み）のうち、無電柱化工事に着手した割合 ※平成30年度に新規計画を策定するため、策定後に変更します</small>	電柱・電線が路上からなくなり、快適な道路空間が創出され、美しい街並みが形成されます。	43% (20km) (2016)	<b>84%</b> (39km) (2021)
	<b>⑤道路案内標識の改善率</b> <small>古い基準で表記されているローマ字表記などを改善した標識の割合</small>	道路案内標識の表記を統一することにより、全ての人にわかりやすい案内標識になります。	— (2016)	<b>100%</b> (算定中) (2021)
	<b>⑥自転車走行環境整備率</b> <small>矢羽根型路面表示など、自転車走行空間の計画延長のうち、走行空間を確保した延長の割合</small>	矢羽根型路面表示の設置などを進め、安全で快適なサイクリング環境が整備されます。	37.5% (213km) (2016)	<b>100%</b> (568km) (2021)
暮らし	<b>⑦渋滞対策実施率</b> <small>地域の主要な渋滞箇所のうち、交差点改良やバイパス道路の整備などの渋滞対策を実施した箇所の割合</small>	交差点改良やバイパス道路の整備などの渋滞対策により、移動時間が短縮されます。	37.5% (18箇所) (2016)	<b>100%</b> (48箇所) (2021)
	<b>⑧高速道路の平均I C間隔</b> <small>東名高速道路及び新東名高速道路における平均I C間隔</small>	スマートI Cの設置により、I C間隔が短くなることで高速道路が利用しやすくなり、周辺地域の活性化や物流の効率化が図られます。	10.0km (2016)	<b>8.8km</b> (2021)
安全・安心	<b>⑨重要路線等にある橋梁の耐震化率</b> <small>古い基準を適用した橋長15m以上で管理上重要な橋梁のうち、耐震対策を実施した橋梁の割合</small>	災害時に救急・救援活動等に必要な人や物の輸送ルートが確保されます。	63% (363橋) (2016)	<b>100%</b> (576橋) (2022)
	<b>⑩道路斜面の要対策箇所の対策実施率</b> <small>緊急輸送路上の事前通行規制区間内にある、H 8防災点検要対策箇所のうち対策を実施した箇所の割合</small>	集中豪雨等による通行規制により、集落の孤立化の発生を抑制します。	72.2% (135箇所) (2016)	<b>83.4%</b> (156箇所) (2022)
	<b>⑪通学路合同点検に基づく対策実施率</b> <small>県管理道路において、通学路合同点検に基づき選定された要対策箇所のうち、対策を実施した箇所の割合</small>	小中学生が安全・安心に通学できる環境が広がります。	57.4% (116箇所) (2016)	<b>100%</b> (202箇所) (2021)
	<b>⑫長寿命化計画に基づく対策実施率</b> ◆橋梁 { 法定点検（2018年度未までに実施）で「早期措置段階」と判定された県管理橋梁のうち、対策を実施した橋梁の割合 ◆トンネル { 法定点検（2018年度未までに実施）で「早期措置段階」と判定された県管理トンネルのうち、対策を実施したトンネルの割合 <small>※「早期措置段階」：構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき段階</small> ◆舗装 { 県管理道路におけるアスファルト舗装のひびわれ率 <small>※数値が低いほど健全度が高い。</small>	道路施設の点検や補修を適切に実施することにより、安全で信頼性の高い道路環境が確保されます。	20% (2017推定)	<b>100%</b> (2022)
			35% (2018推定)	<b>100%</b> (2022)
	27% (2017)		<b>26%</b> (2022)	

評価指標の設定による施策の進捗管理

# 進捗管理

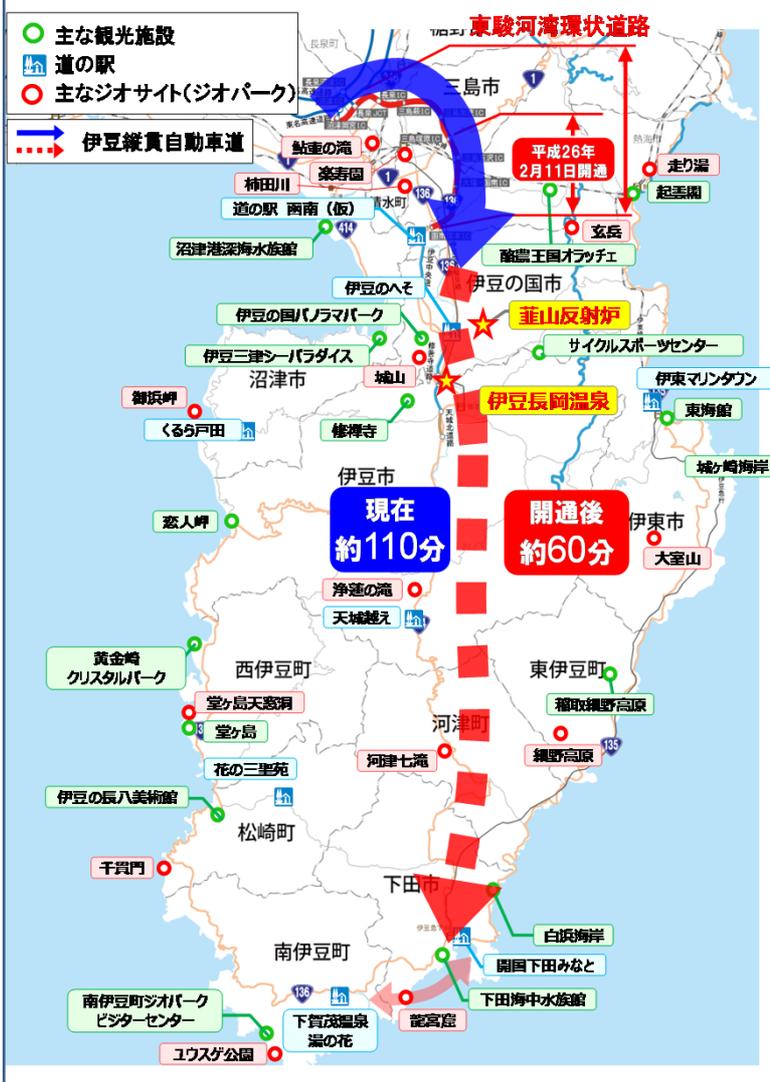
## 事業効果の検証

みちづくりのストック効果(企業立地件数、観光交流客数等)の分析やみち～満ち・充ちミーティング等で地域の声を確認することにより、事業の効果を検証します。

※ストック効果とは  
道路などを整備することで、物流の効率化や、災害が起きにくい、便利で安全・安心な地域が形成され、新たな企業立地による雇用の拡大や広域からの観光客の増加などが促進されます。  
このように、整備・蓄積された社会資本が、継続的かつ中長期的に、地域経済の発展や県民生活の向上にもたらす効果を「ストック効果」と言います。

### ●ストック効果の例 (伊豆縦貫自動車道)

伊豆縦貫自動車道の全線開通により更なるストック効果が！  
⇒宿泊者数の増加など、周辺地域の観光が活性化！



伊豆半島ジオパーク 世界ジオパーク認定  
 (に向けて取組みを推進中)



### ■伊豆長岡温泉の宿泊者数



※ストック効果事例集「伝えたい、静岡県、土木のチカラ。」

[http://www.pref.shizuoka.jp/kensetsu/ke-030/doboku\\_stock.html](http://www.pref.shizuoka.jp/kensetsu/ke-030/doboku_stock.html) 参照

### ●地域の声

地域の方々や道路利用者と意見交換する「みち～満ち・充ちミーティング」、県民へのアンケート等により、事業の効果を検証してまいります。

# 重点施策

平成30年度以降の4年間（2018年～2021年）に重点的に取り組む施策です。

## 魅力を高め、交流を支える“みちづくり”

### ◆ 景観に配慮した道路整備やわかりやすい道路案内標識の整備

- 周辺と調和した道路施設の色彩選定、わかりやすい道路案内標識の整備
- 道路景観を向上させ、安全で快適な歩行空間を確保する無電柱化の推進

#### 【景観に配慮した道路施設の整備】



（防護柵）  
国道135号<伊東市>

#### 【わかりやすい道路案内標識の整備】



（英語表記の改善）  
県道熱海海南線<熱海市>

#### 【無電柱化】



県道三島停車場線<三島市>

### ◆ 交流を支え環境に配慮した道路整備

- 道路空間の再配分や矢羽根等の路面表示などによる自転車走行空間の確保
- 全ての人にとって使いやすい歩道のユニバーサル化
- 富士山の登山道区間の渋滞を解消し、地球環境への負荷軽減を目指す富士山のマイカー規制等の取組

#### 【自転車走行空間の確保】



県道鷹岡富士停車場線<富士市>



県道沼津土肥線<沼津市>



国道301号<湖西市>

#### 【歩道のユニバーサル化】



県道三島停車場線<三島市>

#### 【富士山マイカー規制】



水ヶ塚駐車場<富士宮市>



富士山スカイライン<富士宮市>

# 重点施策

I はじめに

II 道路を取り巻く環境

III 概ね10年間の道路ビジョン

IV 4年間の道路重点計画

## 豊かな暮らしを支える“みちづくり”

### ◆IC・空港・港湾・工業団地等へのアクセス道路の整備

- 高規格幹線道路の整備促進（新東名高速道路、三遠南信自動車道、伊豆縦貫自動車道等）
- 高規格幹線道路へのアクセス道路等、幹線道路の整備推進（金谷御前崎連絡道路等）

#### 【高規格幹線道路等の整備】



新東名高速道路<御殿場JCT>



三遠南信自動車道<千瀬川橋>



金谷御前崎連絡道路<金谷相良道路>

### ◆交通円滑化を図る渋滞対策等

- 主要な渋滞箇所の4車線化やバイパス道路整備、長大橋の整備、交差点改良など
- 中山間地域と市街地を結ぶ道路におけるすれ違い困難箇所の解消

#### 【長大橋の整備】



県道富士由比線<新々富士川橋>



完成イメージ

#### 【バイパス整備】



国道301号<利木拡幅>



国道362号<青部バイパス>

### ◆道の駅やスマートICの設置・活用による地域活性化の推進

- 地域活性化の拠点となる道の駅の活用
- 高速道路を有効活用し地域活性化を図るスマートICの整備促進

#### 【道の駅の整備】



道の駅<伊豆ゲートウェイ函南>



道の駅<くるら戸田>

#### 【スマートICの整備】



東名<足柄スマートIC (完成イメージ)>



東名<静岡東スマートIC>



東名<館山寺スマートIC>

# 安全・安心な生活を支える“みちづくり”

## ◆高規格幹線道路の整備促進

- 円滑で迅速な応急・救急活動を支援し、救急医療における搬送作業に貢献する「命の道」となる高規格幹線道路の整備
- 道路ネットワーク拡充のため、高規格幹線道路をはじめとする幹線道路やそのアクセス道路の整備

### 【高規格幹線道路の整備】



伊豆縦貫自動車道<天城北道路>



中部横断自動車道<吉原高架橋>

### 【アクセス道路の整備】



国道136号<江間交差点改良>

## ◆地域の孤立等を防止する防災機能の強化

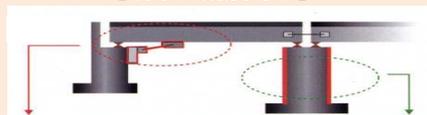
- 大規模地震に備える橋梁の耐震対策
- 台風や大雨等により災害の発生が懸念される道路法面の防災対策

### 【道路法面の防災対策】



県道藤枝黒保線<藤枝市>

### 【橋梁の耐震対策】



落橋防止装置の設置

橋脚の補強



国道136号<弓ヶ浜大橋>



国道414号<三園橋>

## ◆安全な道路環境を確保する交通安全対策

- 歩行者の安全を確保する路側帯のカラー舗装や歩道整備
- 交差点などの事故多発地点における事故防止対策
- 自転車の円滑な走行空間の整備

### 【カラー舗装】



県道稲取港線<東伊豆町>

### 【歩道設置・バス待機場所確保】



県道大東相良線<御前崎市>

## ◆道路施設の適切な維持管理

- 施設の長寿命化を図るため、予防保全管理を推進（計画的な点検と補修の実施）

### 【橋梁補修(塗装)】



県道大東相良線<国安橋>

### 【トンネル補修】



国道136号<新安良里トンネル>

# ネットワークを構築する主要整備箇所

「県全域で見る施策の全体像」に示す道路ネットワークの構築に向け、2018～2021年度の4年間に整備を進める主要な事業箇所を示します。

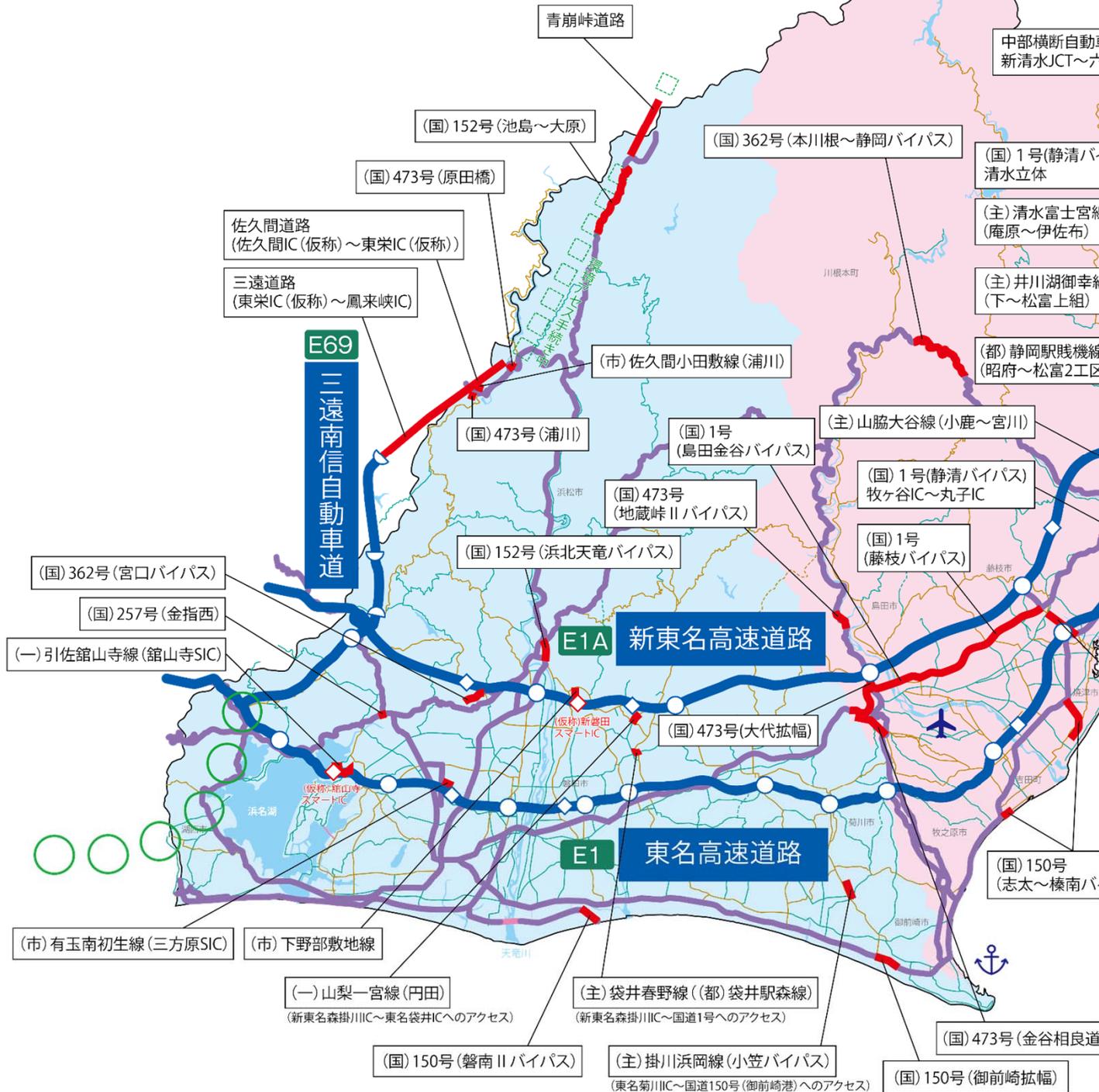
## 【対象道路等】

- ・高規格幹線道路、地域高規格道路、国道（直轄・補助）及び高規格幹線道路のICへのアクセス道路（国道、県道、市道問わない）

## 【掲載箇所】

- ・対象道路等において、2018～2021年度の4年間に実施する箇所

※本箇所図に掲載した箇所以外で現在進めている事業についても、引き続き進めていきます。



I はじめに

II 道路を取り巻く環境

III 概ね10年間の道路ビジョン

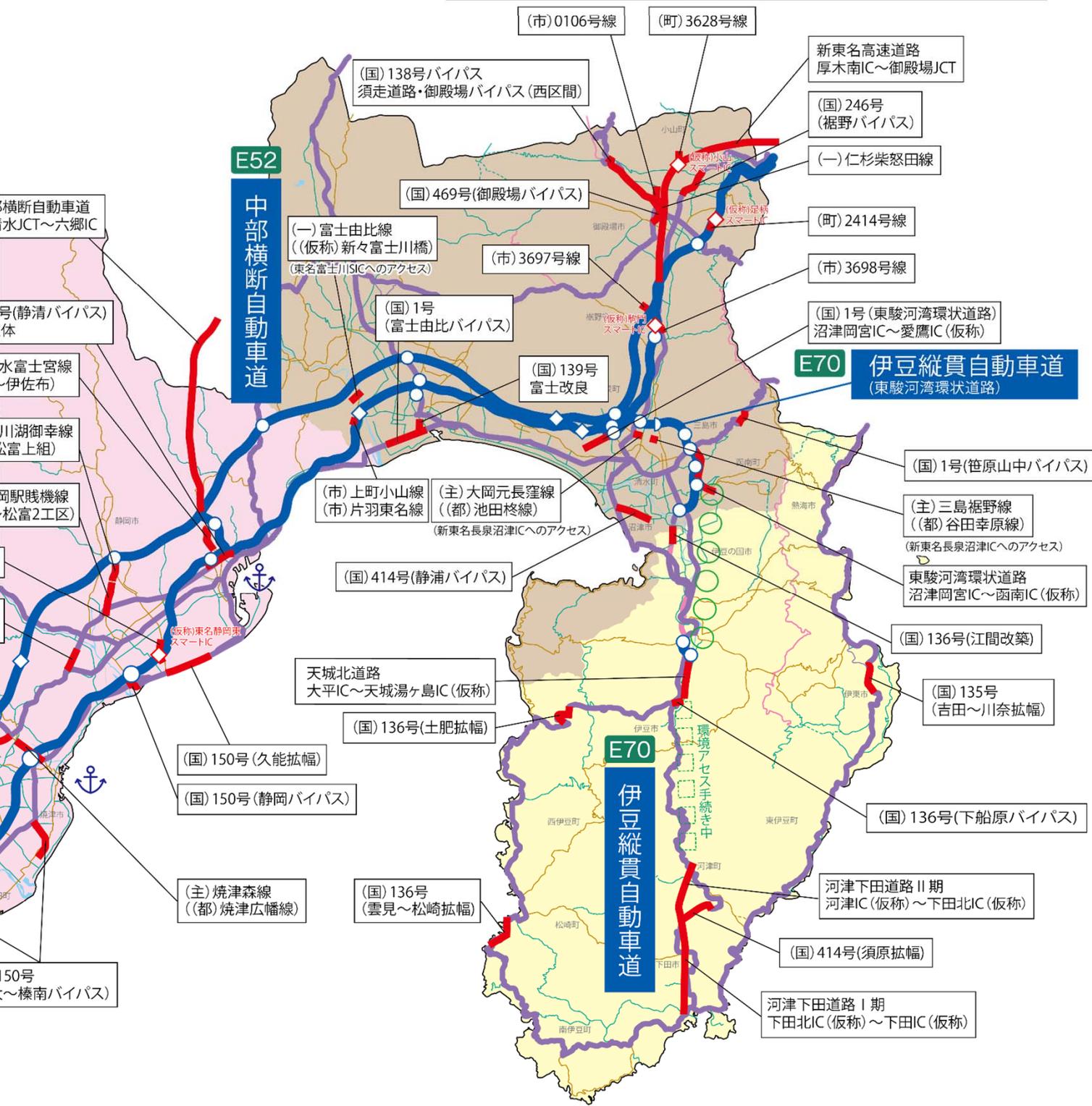
IV 4年間の道路重点計画

【箇所の凡例】

4年間に実施する事業箇所	—
4年間に整備を実施するスマートIC	◇

【道路種別の凡例】

●高規格幹線道路	●有料道路
供用済区間	●一般国道
予定路線等	●主要地方道
基本計画区間	●都道府県道
IC（供用中）	
スマートIC（供用中）	
高速道路路線番号	



# みちづくりを進める取組

I はじめに

## 事業着手準備制度

- 事業化に先立ち、地域のニーズを的確に反映した計画を策定し、事業着手後の円滑な進捗を図るため、地域の皆様や市町と計画について事業効果や問題点を話し合う取組を進めます。



ワークショップの様子

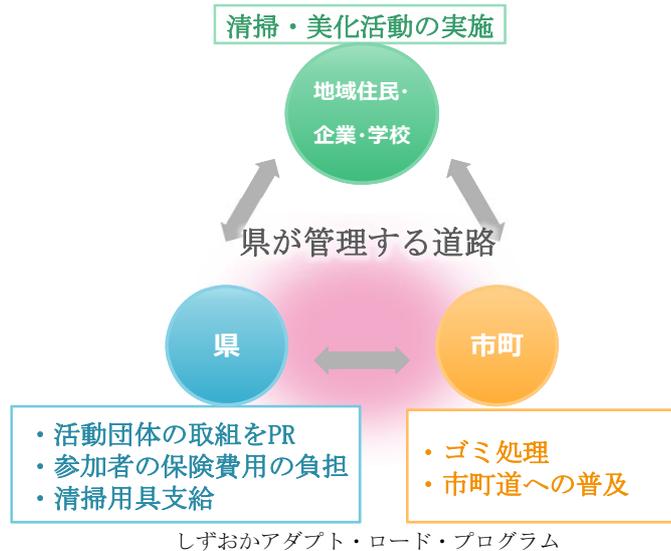


「事業着手準備制度の流れ」

II 道路を取り巻く環境

## 協働の取組

- しずおかアダプト・ロード・プログラム等により、自治体・住民・企業・学校それぞれが必要な役割を担って、きれいな道・きれいな街づくりを目指します。



沿道の美化の様子

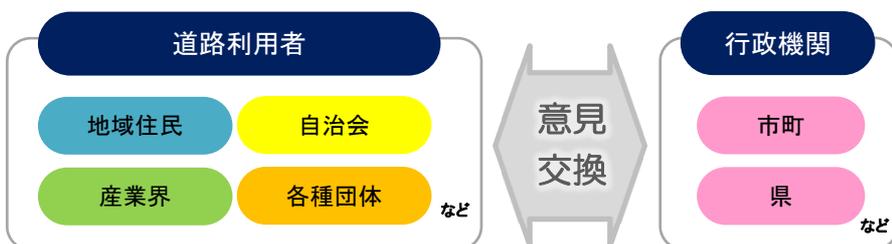


ガードレール塗替えの様子

III 概ね10年間の道路ビジョン

## みち～満ち・充ちミーティング

- 地域住民や産業界等の方々から幅広く御意見を伺い、道路利用者の目線に立った利用しやすい“みちづくり”を進めます。



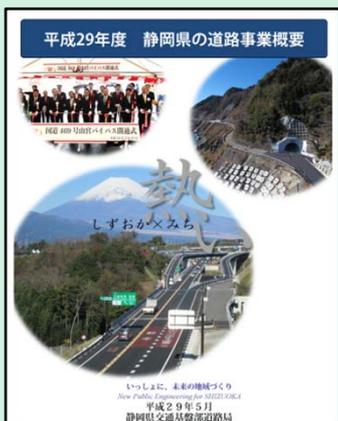
IV 4年間の道路重点計画

# 広報

- 道路利用者や県民の皆様へ“みちづくり”への関心を深めていただくため、戦略的なPRを進めます。

## 取組例1：道路予算やストック効果を情報発信

みちづくりの取組やストック効果等を知っていただくため、わかりやすいパンフレットを作成し、情報発信を行います。



平成29年度 静岡県の道路事業概要



ストック効果のPR

## 取組例2：イベントの実施

道路の役割や道路事業の必要性を理解していただくためのイベントや現場見学会を開催します。



「土木の日」イベントの様子



現場見学会の様子

## 取組例3：SNSの活用

SNSを活用して、リアルタイムの情報発信していきます。



道路局のTwitterページ

# 道路交通情報の提供

- 今までの取組をさらに充実させ、道路利用者の方々が道路を安全・快適に利用できるようなするため、豪雨や地震などによる災害や工事による道路の通行規制情報の提供を進めます。



通行規制区間の表示

静岡県道路通行規制情報管理提供システム



静岡県 交通基盤部 道路局 道路企画課  
〒420-8601 静岡県静岡市葵区追手町9番6号  
TEL 054-221-3014 FAX 054-221-3337  
<http://www.pref.shizuoka.jp/kensetsu/index.html>